

近代日本 〈陳列所〉研究

三宅 拓也 著

▶ A 5判・600頁／定価：本体 7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1788-5

2015年3月刊行予定

(元・広島県物産陳列館)



本書が扱う〈陳列所〉とは、地方行政府によって「物産陳列所」や「商品陳列所」などという名称を冠せられて建設された公共の陳列施設である。これらは博物館関連施設、地域物産の販売所というように、現在の活用方法が異なるだけでなく、竣工時期、意匠、規模、構造、立地環境まで様々である。この種の施設が、都市の農業・工業・商業を奨励する目的で各地に設置された経緯を検証し、制度・活動・建築を含めて都市との関わりに注目することで、明治から昭和戦前期の日本にあまねく普及した〈陳列所〉の実態を、豊富な図版とともに明らかにする。

◆◆予定目次◆◆

序章 〈陳列所〉研究史と本書の視座

〈陳列所〉とは何か／既往研究の成果／本書の課題と構成

第一章 一九世紀末における商品陳列機関の世界的流行

“Commercial Museum”あるいは“Export Samples Warehouse”

一九世紀末における商品陳列機関をめぐる世界的状況／新陳代謝するミュージアム—ブリュッセル・コマーシャル・ミュージアムの誕生

第二章 明治初期の勸業政策と陳列施設

明治政府の殖産興業政策／内国勸業博覧会の開催と政府主導の陳列施設／地方都市における博覧会開催とその常設施設への展開—石川県を事例として

第三章 「通商博物館」設置計画と「商品陳列所」の受容

明治政府による「通商博物館」設置計画／府立大阪商品陳列所の誕生

(元・香川県商工奨励館)



みやけ・たくや…1983年 大阪府豊中市生。2006年 京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科卒業、2011年 東京都歴史文化財団東京都現代美術館専門調査員、2012年度全日本博物館学会奨励賞受賞、2013年 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士後期課程修了、博士(学術)。現在、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科助教。

(元・岡崎市郷土物産陳列庫)



第四章 農商務省による〈陳列所〉組織化の試み

貿易品陳列館設立から「道府県市立商品陳列所程定」制定まで

農商務省商品陳列館の設立—事業統合と庁舎建設／農商務省商品陳列館による地方陳列所の支援／「道府県市立商品陳列所程定」の制定とその効果

第五章 多様化する〈陳列所〉内地・外地の〈陳列所〉

内地の〈陳列所〉／外地の〈陳列所〉[台北:台湾総督府商品陳列館・京城:朝鮮総督府商品陳列館・ハルビン:ハル濱商品陳列館(日露協会)・シンガポール:新嘉坡商品陳列館]

第六章 社会教育施設としての〈陳列所〉

山口貴雄による運営とその建築

近代工業教育の成果としての山口貴雄／「商品陳列所」における山口貴雄の活動／山口貴雄の〈陳列所〉運営

結章 近代日本の〈陳列所〉

〈陳列所〉の誕生と展開／〈陳列所〉の特質／〈陳列所〉にみる近代の日本

あとがき／初出一覧／図版一覧
付録：〈陳列所〉建築一覧／索引

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	近代日本〈陳列所〉研究		本体7,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1788-5		
お名前	tel						
	e-mail						
ご住所	〒					本書HPのQRコード	
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)					書店番線印	

劇場の近代化

帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場

永井聡子著

明治・大正・昭和初期における劇場の近代化に大きな影響を与えた3つの劇場、帝国劇場（明治44年開場）・築地小劇場（大正13年開場）・東京宝塚劇場（昭和9年開場）を取り上げ、当時のさまざまな言説、図版、写真、インタビューなどの資料を読み解き、西洋の劇場近代化過程とも比較しながら日本の劇場の近代化の特色を描きだす。

【内容】

帝国劇場以前の歌舞伎劇場に見られる近代化／帝国劇場に見られる近代化／築地小劇場に見られる近代化／東京宝塚劇場に見られる近代化／帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場に見られる「劇場」の近代化

▶A5判・230頁／本体3,500円（税別）
ISBN978-4-7842-1737-3



※万国博覧会の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。【内容】博覧会時代の背景／万国博覧会と日本の「美術工芸」／博覧会と大量生産技術の移転／明治初期の京都博覧会／1910年南洋勸業会始末 など
▶A5判・374頁／本体6,500円（税別） ISBN4-7842-0414-8

応用美術思想導入の歴史

ウィーン博参同より意匠条例制定まで

天貝義教著

「博覧」「伝習」「勸業」を目的としたウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勸業博覧会を経て、「デザイン」である意匠条例が制定されるまで、応用美術思想がいかに学習され、明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしたかを明らかにする。
▶A5判・410頁／本体7,500円（税別） ISBN978-4-7842-1505-8

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。
▶A5判・300頁／本体2,500円（税別） ISBN978-4-7842-1641-3

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積に対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。
▶B5判・550頁／本体12,000円（税別） ISBN978-4-7842-1345-0

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

近代に大きく変わったまち・京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。
▶A5判・628頁／本体9,000円（税別） ISBN978-4-7842-1413-6

都道府県庁舎 その建築史的考察

石田潤一郎著

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。
▶A5判・448頁／本体8,600円（税別） ISBN4-7842-0775-9

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。
▶A5判・364頁／本体6,500円（税別） ISBN978-4-7842-1570-6

近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。
▶A5判・400頁／本体8,400円（税別） ISBN4-7842-0865-8

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道（1836-1916）は、京都府知事に就任した明治14年（1881）から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年（1901）までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。
▶A5判・652頁／本体9,800円（税別） ISBN978-4-7842-1499-0

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、また、時流の政治や論調に動ずることなく、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようと開かれた京都大学人文科学研究所「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見直す視座を形成しようとする試みの85篇。
▶A5判・268頁／本体2,600円（税別） ISBN978-4-7842-1378-8

近代日本の歴史都市 古都と城下町

高木博志編

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっている。しかしそれらは、近代化の過程で発見され、選び取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。
▶A5判・600頁／本体7,800円（税別） ISBN978-4-7842-1700-7

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題
▶A5判・400頁／本体6,600円（税別） ISBN4-7842-0873-9

※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。
▶A5判・352頁／本体5,500円（税別） ISBN978-4-7842-1336-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。